

地域環境に応じた取り組みについて

福岡県土木施工管理技士会
株式会社 廣瀬組 工事部
現場代理人

野 田 豊

1. はじめに

当工事はクリーク防災機能保全対策事業の一環で、稲作に必要な水を確保するための用水機能と貯水機能を兼ね備えたクリークの法面崩壊や用排水施設の老朽化等により防災機能の保全や生産性の向上のための整備工事。

施工延長L=384.9m、21号クリーク（126.0m）、31号クリーク（258.9m）水路高（直高）3.0m



写真-1 21号クリーク着手前



写真-2 21号クリーク完成



写真-3 31号クリーク着手前



写真-4 31号クリーク完成

工事概要

工事名：平成18年度起工第5号クリーク防災機能
保全対策事業 木佐木第2Ⅱ期地区 水路
工事

発注者：福岡県筑後川水系農地開発事務所

工事場所：福岡県三潴郡大木町蛭池地内

工期：平成18年8月22日～

平成19年3月16日

土工 泥土掘削 3,969m³ その他一式

地盤改良工 マッドミキサー攪拌	986.0m ³
護岸工 コンクリートブロック積	459.8m ²
コンクリート柵渠 (3,500×1,500)	130.0m
コンクリート柵渠 (5,000×1,500)	96.5m
法面保護工ブロックマット	1,637m ²
仮設工仮設道路設置	943m ³

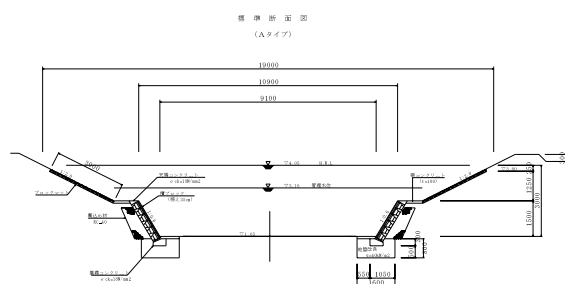


図-1 21号クリーク標準断面図

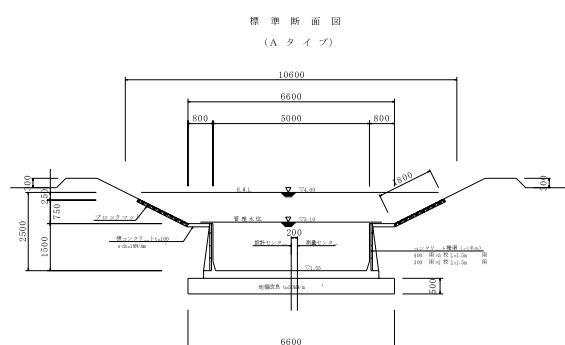


図-2 31号クリーク標準断面図

2. 現場における課題・問題点

問題点①

現場周辺に民家、保育園等が隣接しており、重機、材料搬入時、大型車両の運行での家屋への振動騒音等の影響。

問題点②

保育園児の送迎時間帯には一般車両での送迎も非常に多く、工事関係車両と一般車両との接触事故、一般車道への渋滞等の影響。

問題点③

既存のクリークを仮締切し、水中ポンプにて溜水の排水を行う為、クリーク内の生物（魚、亀等）が大量に浮き、水中ポンプ詰まりの原因が発生。また、

生物の死骸がそのまま堆積し、現場周辺への悪臭が発生。

3. 対応策・工夫・改良点

問題①については、大型車両の運行において、事前に地元関係者と打合せを行い、運行許可時間、速度規制の区間を設定した。その決定事項を朝礼にて通知すると共に区間内に看板等を設置し、運転手へ周知徹底させた（写真-5、6）。



写真-5 規制区間看板設置



写真-6 朝礼状況

問題②については、保育園関係者と打合せを行い、送迎時間帯になるべく大型車両を通行させないように心掛け、やむ得ない場合は、園児送迎車、地元一般車を最優先させ現場運行をした。また、保育園行事開催日を確認、振動騒音等の影響があると思われる区間については、作業を中止した。保育園の行事にもできるだけ協力、駐車場整備の手伝いをした時は、保育園関係者、園児の父兄方から喜んでもらい大変良かったと思う（写真-7、8）。

また、一般車道を汚さないように十分注意し施工を行ない、多少汚れた場合でもその都度清掃を行った（写真-9、10）。



写真-7 保育園駐車場整備状況



写真-8 保育園駐車場整備完了



写真-9 一般車道清掃状況



写真-10 一般車道清掃状況

問題③については、事前に現場周辺の地元関係者にクリークの水揚げ時期を連絡しておき、希望者においては、クリーク内の生物（魚等）を網にて捕獲、活魚として渡した。他の生物については、環境の面からも配慮し、捕獲後、隣接するクリークに逃がした。その結果、水中ポンプの詰まりも無く、現場周辺の悪臭も発生せず施工ができた（写真-11、12）。



写真-11 クリーク内生物捕獲状況



写真-12 クリーク内生物保護状況

4. おわりに

今回の工事では、地元関係者・保育園関係者とのコミュニケーションを密に図り、お互いに協力し合えた結果、無事故・無災害・クレーム無しで工事を完成することができた。

大変良い経験ができたと思う。この経験を今後の業務に役に立てていく。